



18 玉堂富貴図 清水曲河 一幅

絹本着色 江戸時代、文政元年（一八一八）
本紙一三〇・〇×七七・〇

「玉堂富貴」は、富貴を象徴する花である牡丹に、玉蘭花（木蓮）と海棠（音の共通する棠を堂に変化させる）を取り合わせて描く画題で、中国では古くより宮廷画家によって描かれていた。わが国では、江戸時代に南画家が好んで描いた画題である。

本図では、主題の牡丹、木蓮、海棠に、番の錦鶏などの鳥や、霊芝などを描き加えて、吉祥の意味合いをより濃く表した図である。

画師の清水曲河（一七四七〜一八一八）は、董九如（一七四五〜一八〇二）、谷文晁（一七六三〜一八四二）に学び、山水花鳥画を得意とした。宋紫石（一七一五〜一八〇六）の門下であった董九如の描法を良く受け継いでおり、長崎派の影響の強さを窺わせる。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花鳥―愛でる心、彩る技（若冲を中心に）

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 40

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年三月二十五日発行

©2006, The Museum of the Imperial Collections